社会連携報告書

2020（令和 2）年度

鈴鹿大学・短期大学部

COC（地域連携）・国際交流センター

目次

はじめに・・ 1
1. 高大連携・・ 2
三重県高等学校商業教育研究会「マーケティング・ビジネス経済分野指導者育成講座」

2. 学生による地域活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
グローバルスタディ
津市立千里ヶ丘小学校での学習支援ボランティア
こどもボランティア部

3. 地域連携・・ 6
公開講座
高等教育コンソーシアムみえ
SUZUKA 産学官交流会
鈴鹿市社会福祉協議会との防災関連事業
鈴鹿市市民アカデミー「まなベル」
みえアカデミックセミナー
鈴鹿大学小中学生英語スピーチ発表会
あそび広場「すずちゃん」
鈴鹿市観光まちづくり委員会
キャリア教育における地域連携

4. 国際交流・・18
海外留学支援プログラム
国際交流

巻末資料・・・21
学外委員会での活動一覧
2020 年度公開講座一覧
協定先一覧

はじめに

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部の COC（地域連携）・国際交流センターは、学内組織の見直しにより地域連携、国際交流、COC＋およびコンソーシアムみえと三つの部門に分けて運営を行っています。センター全体としては、地域社会活動、教育、ことばなどに関わる社会的課題を解決するために、大学および学生が他大学や地域社会、行政などさまざまな団体と連携することで、本学が持つ知の成果や人的資源による社会貢献を目指しています。またそれが地域社会の発展、本学の研究、教育の進展につなげられることを願っています。

世界規模の感染症、コロナ禍により見舞われた 2020 年度は、平常時のような成果を出すことが難しいなか、各種事業の縮小・中止も余儀なくされました。一方、新規性と将来性を感じさせてくれる新たな取り組みが各方面の尽力のもとで催されました。三重県高等学校商業教育研究会「マーケティング・ビジネス経済分野指導者育成講座」、津市立千里ヶ丘小学校での学習支援ボランティア、キャリア教育における地域連携などがそれであり、教学の魅力を関係者各部門とともに創り上げております。

これらの活動は学生の視野を広げ成長させるだけでなく、地域の皆さまや高校生にとても魅力を感じていただいています。また、鈴鹿市との連携活動においても、鈴鹿市災害ボランティアセンターの設置・運営訓練に加えて、観光まちづくり委員会との協働のもとで地域資源としてのモータースポーツを生かした活動を展開しています。今後、鈴鹿市にとどまらず、広く三重県・東海地方の抱える課題と真摯に向き合い、積極的な協力・提案を行っていきたいと考えています。本学の強みである提案力とフットワークの軽さを生かし、意義のある関わり方を戦略的に行っていきたいと考えています。

本冊子は本学の社会連携活動の 2020 年度分をまとめたものです。ご一読いただければ幸いです。また、本学の活動に魅力を感じていただけましたら、共に考え、共に活動し、共に地域課題の解決をする仲間としてご支援、ご助言いただければと存じます。

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部の社会連携活動について、今後ともご理解、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

COC（地域連携）・国際交流センター長　郭　育仁

事業名：三重県高等学校商業教育研究会「マーケティング・ビジネス経済分野指導者育成講座」

■活動の目的と経緯

目的：

県内商業科教員のマーケティング・ビジネス経済分野の専門性を高め指導力の向上を図るとともに、当該分野での本県のレベルアップを推進するためのリーダーを育成する。定期的に他校教員と研修することで連帯感を築き商業教育全体の活性化に資する。

経緯：

令和元年６月28日　三重県高等学校商業高長会と鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部との商業教育連携・推進に係る協定書締結。

令和２年４月から　「マーケティング・ビジネス経済分野指導者育成講座」を実施、鈴鹿大学教員が講師として参加。

背景：

平成 30 年 3 月 30 日、新学習指導要領が告示され、令和 4(2022)年度以降の入学生から必修科目ではないが、商業科では「観光ビジネス」が教科に加えられる。

そのため、三重県高等学校商業教育研究会では、新科目「観光ビジネス」指導に関する試みが始まっている。

■活動内容と実績

・新学習指導要領「観光ビジネス」に関する先行研究、先進校への視察

・本年度は、いまの商業課の積み上げで実施可能なモデルを検討し、三重県版「観光ビジネス」のパターンをつくっていくことを目標とした。

第１回令和２年６月15日（月）　14:00～17:00@津商業

第２回令和２年７月13日（月）　14:00～17:00@四日市商業

第３回令和２年10月19日（月）　13:00～17:00@豪商のまち松阪

第４回令和２年12月７日（月）　14:00～17:00@宇治山田商業

第５回令和３年３月８日（月）　14:00～17:00@鈴鹿大学

■今後の計画

次年度は、「観光ビジネスに関する実践研究」であり、三重県独自の商業高校版「観光ビジネス」カリキュラム・講義内容の方針を検討する。

■担当者

担　当　国際地域学部　国際地域学科　地域コース（観光）教授　冨本真理子

連絡先　メール　m-tomimoto@suzuka.ac.jp

令和 2 年 12 月 7 日@宇治山田商業

事業名：グローバルスタディ

■活動の目的と経緯

地域社会における多文化共生社会実現に向けた取り組みとして、国際経験の豊富な留学生・日本人学生を地域の幼稚園、小・中・高の県内教育機関、行政、国際交流団体等に派遣しています。

本事業は、地域の皆様に外国に対する知識と理解を深めていただくためだけでなく、参加する本学学生の自己啓発を促すための「教育の場」としても位置づけています。学生たちが本学で学ぶ国際学の専門性と国際経験を活かしながら、地域との交流・協働の中で、責任感、自律心、創造力、コミュニケーション能力等を高めることを目的としています。

■活動内容と実績

・通年　国際交流・異文化理解活動の実施

今年度は新型コロナウィルスの影響により、１回のみの開催となりました。フランス人留学生、韓国人留学生による自国の文化について話をする会を小学校での国際交流授業として行いました。学生たちは、母国の文化や習慣などを説明するためにパワーポイントなどで視覚資料を作成し、写真を見せながら発表しました。小学校の児童のみなさんからはけん玉などの日本の遊びを紹介してもらい、交流しました。

■今後の計画

引き続き、県内教育機関、行政、国際交流団体等からの学びのニーズに応えつつ、地域社会と本学学生の双方にとってより充実した学びとなることを目指し、事業展開を進めていきます。国際交流協会をはじめ、様々な団体との国際交流を検討しています。

■担当者

担　当　留学生教育支援センター　上田　千華
連絡先　メール　ryuugakusei@suzuka.ac.jp

事業名：津市立千里ヶ丘小学校での学習支援ボランティア

■活動の目的と経緯

2003 年度後期から本学学生による「津市立千里ヶ丘小学校での学習支援ボランティア」を実施しています。当時の校長の「気軽に小学校に手伝いに来てくれる大学生がいたら助かるんやけどな～」という一言から始まり、16 年間続いています。活動内容は、こどもたちの学習を支援することが中心で、大学の授業の空き時間を利用して参加できるボランティアです。これまで延べ 300 名以上の学生が参加しました。

■活動内容と実績

学期の始めに鈴鹿大学でボランティア説明会を開き、千里ヶ丘小学校の教務主任の先生から、小学校の概要・特徴、こどもたちの様子、ボランティア活動の内容、注意事項などの説明があります。その後、学生は初回時にスーツを着て小学校に出向き、教務主任の先生から学校に着いてから帰るまでの流れや施設の説明、担当する学年・クラスの様子、実施報告書等の記入方法などを教えてもらい、２回目からは普段着でボランティアに参加します。

学生は、こどもたちから「先生」と呼ばれ、授業の補助をすることはもちろんですが、休み時間に一緒に遊んだり、運動会などの行事を手伝ったりと、様々な場面で活躍しています。中には、時間さえあれば小学校に出向き、まるで講師のように職員室に出入りする学生もいます。

千里ヶ丘小学校の校長先生からは、「こどもたちが安心安全な学校生活を送るためには、多くの大人たちが目配りをする必要があり、学生たちにボランティアに来て頂けることは、大変助かっています。鈴鹿大学の学生は、礼儀正しく、こどもたちに寄り添って面倒をみてくれるため、全体的に意識の高い方が多い印象です。今は、地域のさまざまな機関が連携し、互いに助け合っていくことが求められる時代。学生のみなさんには、本校で過ごす時間を、多くの学びを得る機会の場としてほしいです」という感想を頂いており、小学校と大学双方にとって有意義な取り組みであると考えています。

■今後の計画

2020 年度は、新型コロナウイルスの影響で活動が実施できませんでした。2021 年度は新たな体制で、取り組みを継続していく予定です。

■担当者

担　当　こども教育学部　齋藤　信（授業科目「ボランティア活動」担当）
連絡先　メール　m-saito@suzuka.ac.jp

事業名：こどもボランティア部

■活動内容と実績

こどもボランティア部では、例年、様々な社会的テーマをもとに、保育・教育の現場で「人形劇」を介したメッセージ発信を行ってきました。

特に、「NPO 法人 いのちの言葉プロジェクト」とタイアップし、丁寧なご指導を頂きつつ、交通事故被害者、犯罪事件被害者など、残された遺族に寄り添う活動のお手伝いをさせて頂いてきました。

但し、令和２年度においては、コロナの影響もあり、活動自体を自粛せざるを得ず、「人形劇」そのものの発表には至っておりません。

その中で、数少ない活動実績は以下のとおり。

〇旺文社「蛍雪時代」から、当ボランティア部の活動について取材を受けた。交通事故により最愛の息子を失った遺族の悲しみ、周りのサポート、命の大切さ、などを伝えていく「人形劇」を令和元年に実施しており、その模様を中心とした内容が同雑誌の９月号に掲載された。

〇令和３年１月、「NPO 法人 いのちの言葉プロジェクト」が主催した「犯罪被害で娘の命を奪われた父親の報告会」に、当ボランティア部員が参加、運営のお手伝いをさせて頂いた。

■今後の計画

今年度末をもって、部員６名全員が卒業することを受けて、こども教育学部内での様々な行事内で新入部員の募集を行った。結果、現２年生１名、現１年生３名の入部が決まり、新体制で令和３年度の活動するめどがついた。卒業していく６名も、ボランティア部の活動を外からサポートしていく意思を示してくれており、「NPO 法人 いのちの言葉プロジェクト」とのタイアップも継続して、新たな発表の機会を増やしていきたい。

■担当者

担当：顧問・真下賢一（鈴鹿大学こども教育学部こども教育学専攻）　k-mashita@suzuka.ac.jp

命の大切さを伝える「人形劇」の様子

事業名：公開講座

■活動の目的と経緯

公開講座は、大学のもっている専門知識を広く地域・社会に発信し、大学の知の開放、社会貢献を目的として実施しております。令和２年度は、受講者に分かりやすいよう「スポーツ・健康講座」「英語講座」「管理栄養士国家試験準備講座」「クッキング講座」「音楽療法」「高校生向け講座」のカテゴリーに分けて開講を予定しましたが、コロナ禍によりほぼ中止となりました。

■活動内容と実績

・通年　広報活動の実施（鈴鹿市報・学校向けチラシ・公民館等へのチラシ配置・HP 掲載　など）

・5～2 月　令和２年度公開講座の実施（コロナ化により２講座のみ開講）

★講座実績は別に添付した資料（令和２年度　公開講座　実績）参照

令和２年度は２講座のみの開催でしたが、34 名の受講者の方々に学びの機会を提供させていただきました。コロナ禍の中で、身近な感染症に興味関心を抱く受講者が増えるようになりました。そのほか、心の動きを知る心理学の講座も人気を博しています。

（講座名：心理学入門、齋藤　信先生）

（講座名：身近な感染症、小川　真由子先生）

■今後の計画

引き続き、地域住民の学びのニーズ（福祉、情報、歴史等）に応えつつ、本学の特長を出せる事業展開を進めていきます。また広報活動を見直し積極的な集客を図るとともに、適切な講座の進行・運営を目指していきます。

■担当者

担　当　総務課　および　COC（地域連携）・国際交流センター長　郭 育仁

連絡先　メール　i-kaku@suzuka.ac.jp

事業名：SUZUKA 産学官交流会

■活動の目的と経緯

鈴鹿大学は SUZUKA 産学官交流会（事務局：鈴鹿商工会議所）のプロジェクトへの協力を行っています。例年は、芍薬を活用して鈴鹿西部地域の活性化をはかる「鈴鹿芍薬プロジェクト」など、地元の教育機関や企業と連携する事業を展開しております。残念ながら新型コロナウイルスが猛威を振るった本年度は活動の自粛を余儀なくされました。

■活動内容と実績

・通年 役員会出席

平成 13 年に発足した環境植物研究会が事業の拡充を図るべく平成 27 年度から再構築された「鈴鹿芍薬プロジェクト」が誕生して今日に至っています。本学は同プロジェクトの鈴鹿市西部地域における大規模栽培や薬効成分を活かした生薬製造等の目的の達成に関して、鈴鹿市および県下の関係機関と連携して同プロジェクトを支援しています。毎年 5 月に開催される「鈴鹿シャクヤクまつり」は、学生の学びを実践に還元する貴重な場となっています。

■今後の計画

引き続き産学官の各組織と、地域の課題解決にまつわる連携を構築します。

担当者

担当 国際地域学部 今光俊介

連絡先 メール s-imamitsu@suzuka.ac.jp

事業名：鈴鹿市社会福祉協議会との防災関連事業

■活動の目的と経緯

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部は鈴鹿市社会福祉協議会と災害発生時における相互協力に関する協定書を締結しています。鈴鹿市内において災害発生時に、迅速かつ効率的に被災者に対する支援活動を行うことができるように相互に連携協力することで、被災者等の生活安定に寄与することが目的です。

■活動内容と実績

・７月３日　第１回鈴鹿市災害ボランティアセンター連絡会　出席（Zoom 会議）
・７月１４日　鈴鹿市社協職員による本学「鈴鹿学」での講義　実施（遠隔授業のため、資料提供）
・１月８日　第２回鈴鹿市災害ボランティアセンター連絡会　出席（Zoom 会議）
・２月９日　鈴鹿市災害ボランティアセンター設置・運営訓練　学内会議　実施
・３月 13 日　鈴鹿市災害ボランティアセンター設置・運営訓練　参加

今年度は、新型コロナウィルス感染症対策のため、活動の縮小が余儀なくされました。連絡会は全２回、遠隔で行われました。昨年度、本学を会場として予定されていた鈴鹿市災害ボランティアセンター設置・運営訓練は、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため中止の決断がなされましたが、本年度は、コロナ渦における災害訓練を実施するという計画のもと、Honda アクティブランドで実施されました。２月に鈴鹿市社会福祉協議会より２名が来学され、事前説明を含む会議を実施した上で、感染症対策を徹底し、本学から教員１名が参加しました。

学生が関わるボランティアについて、今年度においては活動休止せざるを得ませんでしたが、鈴鹿市社会福祉協議会との防災関連事業を継続し、来年度から新たに活動が展開出来ると良いと思います。

■今後の計画

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部は積極的に防災への取り組みを行っていることを PR しつつ、今後何ができるのか、鈴鹿市社協や関連団体と協力して取り組んでいきたいと思います。

■担当者

担　当　総務課　および　COC（地域連携）・国際交流センター　　みやざき　美栄
連絡先　メール　m-miyazaki@suzuka.ac.jp

事業名：鈴鹿市市民アカデミー「まなべル」

■活動の目的と経緯

「すずか市民アカデミー『まなべル』」は、鈴鹿市と連携し、鈴鹿市民の「さらに詳しく知りたい」という専門的分野への学習ニーズに応えるとともに、学びの楽しさを実感し、生涯学習をさらに深めていくことを目的としています。

「まなべル」は、鈴鹿市から業務委託という形式で鈴鹿市内の４高等教育機関が行っている事業です。各教育機関を開錠として、それぞれの特徴を生かした専門性のある教育内容を分かりやすく楽しい講座として提供しています。

■活動内容と実績

今年度テーマ「鈴鹿発　知のナビゲーション」

・2020 年 10 月 12 日（月）　10：00～11：30　（会場：本学第一会議室）

講　　座：成人期発達の可能性
～生涯発達心理学から考える～
（ねらい：生涯発達心理学の視点から成人期の発達を考える）

講　　師：こども教育学部　准教授　齋藤　信

参加人数：21 名

・2020 年 10 月 14 日（水）　10：00～12：00　（会場：本学第一会議室）

講　　座：音楽と人間　～音楽療法士の立場から考える～
（ねらい：新型コロナウイルス感染が世界を一変させましたが、このような危機の中にも音楽が果たしている役割は大きい。その理由を、音楽療法士でもある講師が参加の皆様とともに音楽を通して探ることをめざす。）

講　　師：短期大学部　教授　鵜飼　久美子

参加人数：20 名

・2020 年 11 月 14 日（土）　10：00～11：30　（会場：本学 B302）

講　　座：経済学の視点から見た日本のスキーリゾート
（ねらい：スキーリゾートの発展と今後の展望について、経済学の視点から考える）

講　　師：国際地域学部　准教授　佐藤　惣哉

参加人数：17 名

・2020 年 11 月 24 日（火）　13：30～15：00　（会場：本学第二会議室）

講　　座：みんなで健康教育！

（ねらい：学校健康教育の理論及び実際について知る・体験する・理解することによって、次世代健康教育を学校・家庭・地域の連携による社会全体の取り組みとして意識喚起すること。）

講　　師：こども教育学部　講師　木村　美来

参加人数：12 名

■今後の計画

引続き鈴鹿市の要望（テーマ）及び鈴鹿市民の学びのニーズを応えた講座を提供していきます。また、本学の特徴を生かした専門的でありながら、それでいてわかりやすい生涯学習講座を目指していきます。

■担当者

担　当　総務・財務課　柳田　佳奈江

連絡先　メール　soumu@suzuka.ac.jp

事業名：みえアカデミックセミナー

■活動の目的と経緯

三重県内にある全ての高等教育機関が有する高度な学びと県民の方々とをつなぐことを目的とした公開講座セミナーです。各高等教育機関の特色を生かしたバラエティ豊かなセミナーであり、新しい学びの発見につながるとともに、地元の各高等教育機関の特色や地域への取り組みなどを知ってもらうことができるよい機会となっています。

■活動内容と実績

・2020 年 7 月 31 日（金）13：30～15：00　（会場：三重県文化会館レセプションルーム）

講　　座：経済学とはどのような学問かー身近な例から考えるー

講　　師：国際地域学部　准教授　佐藤　惣哉

参加人数：36 名

・2020 年 8 月 27 日（木）13：30～15：00　（会場：三重県文化会館レセプションルーム）

講　　座：食品表示の基本ー買い物のときに役立つ食品表示の見方ー

講　　師：短期大学部　教授　櫻井 秀樹

参加人数：30 名

■今後の計画

引き続き、県民の学びのニーズに応えた講座を提供していきます。また、本学の特徴を生かした専門的でありながら、それでいてわかりやすい講座を目指していきます。

■担当者

担　当　総務・財務課　柳田　佳奈江

連絡先　メール　soumu@suzuka.ac.jp

事業名：鈴鹿大学小中学生英語スピーチ発表会

■活動の目的と経緯

１．開催の趣旨（目的）：鈴鹿大学は「地域に立脚した国際人の養成」を教育目標としています。そのため、語学(英語) 教育に力点を置いてカリキュラムを編成しています。国際化社会における英語教育の重要性に鑑み、少しでも近隣の小・中学校の英語能力向上のお役に立てればと考えます。

２．経緯：鈴鹿市の天栄中学校区および鈴峰中学校区内の小・中学生にご応募を頂いている。

■活動内容と実績

新型コロナウィルス感染症拡大防止の観点から大学祭が中止となり、鈴鹿大学小中学生英語スピーチ発表会も実施できなかった。

以下は、前年度の実施要領である。

日時：令和１年 10 月 26 日（土）９：30～12：00　（大学祭第１日目）場所：国際文化ホール

参加者：教職員４名, 小学生７名、中学生２名、鈴鹿大学生 25 名、一般 25 名　合計 63 名

英語スピーチ発表会出場者：

1. Shu MATSUMOTO (Tenei Junior High School): My Favorite Things
2. Fuga MIYAZAKI (Tenei Junior High School): Textbooks and Tax
3. Nanami SUGINO (Sakae Elementary School): The Things which I’m Hooked On
4. Issa YOSHIKAWA (Sakae Elementary School): What I’m Crazy About
5. Mika TSUJI (Aikawa Elementary School): My Dream
6. Rikuto OTA (Amana Elementary School): The 2nd Sakana-Kun
7. Shopan KATAYAMA (Amana Elementary School): My Family “Bianco”
8. Naruki MATSUMOTO (Amana Elementary School): My Lessons
9. Neal MAHONEY (Special Speaker, Seki-Juku resident): A View on a Future Town Plan

■今後の計画

引き続き、英米語コースもしくは国際コースの学生参加とともに、大学祭第１日目開催を予定して、小中学生約 12 名の参加募集に努めたい。

■担当者

担当者　令和１年度英語スピーチ発表会責任者　国際人間科学部　ブライアン・マホニー

連絡先 メール　bjmahoney@m.suzuka-iu.ac.jp

事業名：あそび広場「すずちゃん」

■活動の目的

あそび広場「すずちゃん」では、地域の親子が集い、子どもが楽しく遊んだり、親と子が交流したりする機会を提供する。また、子ども同士、親同士が自然に交流できる環境を作り、子どもの健やかな育ちを支える。親のニーズに応じ、子育て等に関する情報の提供や相談を通して、親が安心して子育てができる環境を整えることで学生の実践活動を展開する経験を通して保育の実践力を高める場とする。

■活動内容と実績　(2020 年度)

開催期間：10 月～１２月までの毎週月曜日 10 時～12 時（鈴鹿大学 I 棟プレイルーム）
リトミック　10 月５日、11 月 16 日に開催（５月・６月・７月・２月・３月は中止）

開催回数：通常の広場９回　リトミック３回

参加人数：来場乳幼児　延べ 56 名。

参 加 費：通常の広場　無料　リトミック　親子１組１回 500 円

対　　象：広場・リトミック　未就園児親子

担 当 者：田中裕子　杉山佳菜子　リトミック：勝井由紀（外部講師）

■今後の計画

今年度はコロナウイルス感染症の影響で、４月から９月までは広場を開催することができなかった。また、感染症対策で、HP からの事前申し込み制とした。本来であれば、自由度の高い広場であるはずが、いくつかの制限が伴い、なかなか本来の運営ができなかった。しかし、開催日には子どもが楽しく遊んだり、親と子が交流したりする機会を提供でき、また同時に学生の学びの場とすることができた。

昨年度までは１５組受け付けていたリトミックも１０組と限定することとなったうえ、２回しか開催できなかった。人気イベントで、毎回受付日には定員に達してしまうほどであり、保護者の方からもぜひ開催してほしいという声をたくさんいただいている。次年度のリトミックは７月から開催することし、なるべく中止がないように設定する。

次年度は感染症対策を十分に講じながら、広場の存在をより多くの人に利用してもらえるように広報し、多くの参加者を学生の学びの成果も高めていきたい。

■担当者

担当者代表　こども教育学部 杉山佳菜子
連絡先　　k-sugiyama@suzuka.ac.jp（杉山）

事業名：鈴鹿市観光まちづくり委員会

■活動の目的と経緯

鈴鹿市観光まちづくり委員会は、平成 19 年３月に策定された「鈴鹿市観光振興基本計画（以下、「基本計画」という）」で示された３つの観光振興（乗り物、地域文化、自然資源）およびそれに向けた５つの戦略（イメージ戦略、観光情報伝達、観光ルートなどの設定、交通環境や観光施設などの整備、観光振興推進体制の確立）に関する方向性を推進するために設置されたものである。（「鈴鹿市観光振興基本計画」平成 19 年３月）

■活動内容と実績

参加団体：鈴鹿大学，アグリロマン鈴鹿，白子まちかど博物館，鈴鹿 MS 友の会，語らい館よこた，みどりの大地，鈴鹿商工会議所，鈴鹿市文化財課，鈴鹿市地域資源活用課，鈴鹿市観光協会

鈴鹿 10H ボランティア（2019）

大学祭（2019）

令和２年度活動：

第１回鈴鹿市観光まちづくり委員会７月 31 日（金）14：00

第２回鈴鹿市観光まちづくり委員会 11 月 20 日（金）14：00

令和２年度は、新型コロナウィルス感染症のため、委員会の回数が例年に比べ減少し、各種団体の行事も軒並み中止となったが、次年度に開催される三重とこわか国体・三重とこわか大会に向けて、行政では準備を進めている。

鈴鹿大学の活動：例年は大学祭や、市内のイベントで協力体制をしいているが、今年度はすべて中止であった。鈴鹿大学の授業「鈴鹿学」「モータースポーツ論」、大学祭などで、本委員会に協力いただいている。

例）鈴鹿市役所総合政策課、地域資源活用課、地域協働課、鈴鹿市社会福祉協議会、公益財団法人鈴鹿国際交流協会、鈴鹿市公民館など

■今後の計画

今後も、鈴鹿市内の関係団体と協力しながら鈴鹿市の観光まちづくり活動の発展に協力しつつ、本学学生の地域での学びにも活用する計画である。

■担当者

担　当　国際地域学部　国際地域学科　地域コース（観光）教授　冨本真理子

連絡先　メール　m-tomimoto@suzuka.ac.jp

事業名：キャリア教育における地域連携

■活動の目的と経緯

鈴鹿大学国際地域学部のキャリア教育では、様々な地域の企業と連携した教育を行っている。

■活動内容と実績

コロナ禍の中では、対面授業において様々な地域企業の方々がセミナーを実施することに制約があった。そのため、以下の３方式により地域企業の活動についての説明を行った。

① 対面授業での実施

② オンライン（Zoom）による実施（企業と学生を直接オンラインで繋ぐ方法）

③ 企業が資料を提供し、教員が企業で取材を行い、教員が対面・オンラインで実施。

対面授業では、トヨタレンタリース三重と石鈴産業が、企業説明を実施して頂いた。

トヨタレンタリース三重

石鈴産業

伊勢志摩リゾートマネジメントとグリーンズは、オンライン（Zoom）授業で企業説明を実施して頂いた。

伊勢志摩リゾートマネジメント

グリーンズ

2020 年度はコロナ禍の問題から、対面授業やオンライン授業の実施ができなかった企業も多くあった。その場合、資料を提供して頂き、教員が事前に取材を行い、それをオンライン授業で説明する方法を取った。一号館（スーパー）、中勢ゴム（製造業）、日本陸送・名阪急配（物流業）、やる気スイッチグループ・三幸（株）（スポーツ教室やスポーツ施設の管理）のご協力を頂いた。

コロナ禍の為、伊勢志摩リゾートマネジメントと鈴鹿サーキットで予定されていた 2 週間の長期インターンシップは、残念ながら中止となった。

鈴鹿中等学校のご協力により、長期インターンシップは 1 件のみ実施できた。鈴鹿中等学校の入試広報業務（ホームページやパンフレットの作成）を、本学学生がお手伝いするインターンシップ（2020 年 10 月～2021 年 3 月）を実施した。

鈴鹿中学とのインターンシップ打合せ（オンライン）

コロナ禍の制約条件の中で、何らかの学外研修ができないか検討をしたが、インターンシップや企業訪問の実施ができなかった。

しかし、日本トランスシティと四日市港管理組合のご協力により、四日市港研修（2020 年 9 月）ができた。

■今後の計画

引き続きコロナ禍での制約はあるが 2021 年度については、キャリア教育では、製造業、物流業、スーパー、クルマ関連、建設業の地元企業の方々や中小企業家同友会のご協力により、対面の企業説明を実施予定である。

また、地元企業での長期インターンシップや、物流業・製造業などの学外研修を実施して行きたい。

■担当者

担　当　国際地域学部　国際地域学科　ビジネスコース（経営学）准教授　松井義司
連絡先　メール　y-matsui@suzuka.ac.jp

事業名：海外留学支援プログラム

■活動の目的と経緯

本学の目標のひとつに「国際社会で活躍できる人材の育成」が掲げられ、実績を出しています。2019 年度より全学部・学科の学生および優秀な留学生の参加を視野に入れて対応するため、中身を大幅に見直すとともに「海外留学支援プログラム Study Overseas Program」へ名称変更を行いました。

学生自らが海外生活を送り、異文化を体験できるよう、協定校への留学を支援します。国際社会へのアプローチを通して、幅広い知識と教養を身につけ、諸国語の習得や対象国・地域の課題を実践的に学ぶことが期待されます。

■活動内容と実績（2020 年）

（１）交換留学の派遣：１名（韓国・仁川大学・交換留学生）

（２）支援金総額：０円（コロナ禍により派遣はほぼ不可能）

コロン禍のなかで、派遣実績のある対象校と連携を強化し、学生を送り出していることができました。学生自身の成長が本事業として主な目標を達成したとともに、海外大学との国際交流が継続性を見せています。

一方、国内社会の変動に伴う大学経営の深刻化が本事業実施の可能性を制限してしまうほか、派遣対象協定校の新規開拓による多様化、といった課題が幾つ残っています。

（韓国・仁川大学教職員と派遣交換留学生・中田　俊輔氏）

■今後の計画

担当部署と協議し、事業の継続性と健全化を図るほか、オンライン交流事業の可能性を検討します。

■担当者

担　当　教務・学生支援課　および　COC（地域連携）・国際交流センター長　郭 育仁
連絡先　メール　i-kaku@suzuka.ac.jp

事業名：国際交流

■活動の目的と経緯

本学の海外における情報発信を図ることにより、入試広報の効果が得られるほか、それに伴う事業の実施も大学総合改革の審査対象となっています。

■活動内容と実績

・ 本事業における 2020 年度の活動は、コロナ禍によりほぼ中止となりました。そのなかで、協定校・長栄大学日本教育センターの要請に応え、国際オンライン講座に本学教員（郭 育仁）が出講しました。

■今後の計画

既存の大学間協定に基づく学生交流事業を継続するほか、本学の教学内容に沿って、英語圏の協定校の新規開拓や、オンラインによる国際交流の可能性を模索し、魅力的な交流事業を推進します。

■担当者

担　当　総務課　および　COC（地域連携）・国際交流センター長　郭 育仁

連絡先　メール　i-kaku@suzuka.ac.jp

事業名：高等教育コンソーシアムみえ

■活動の目的と経緯

三重県内高等教育機関相互並びに県内高等教育機関と地域との連携を促進することにより、県内高等教育機関の教育、研究、地域貢献の各機能の向上を図り、人口減少の抑制及び地域の活性化を実現することを目的として発足しました。鈴鹿大学は、2016 年 3 月の高等教育コンソーシアムみえ設立と同時に活動に参加しています。

※2020 年度、ＣＯＣ＋は、高等教育コンソーシアムみえへ機能が移転・統合されました。

■活動内容と実績

☆三重創生ファンタジスタの育成（ＣＯＣ＋）（2020 年度は新型コロナウィルス感染症の拡大にともない、本学は参加しませんでした）

学生たちに三重県のことをよく知ってもらおうと、県内の学生であれば誰でも受講できる三重創生ファンタジスタオリジナル科目を開講し、本学からも、2017 年度から学生が参加しています。三重県総合博物館などで、三重を知る座学と、フィールドワーク（熊野市周辺）で地域の方々を取材、その成果を事後発表会へとつなげるという 3 ステップは、ハードルは高いですが、学生たちは、他大学の学生との学びで、大きく成長することができました。この体験が、のちのキャリア形成につながれば幸いです。

2019 年熊野市でのフィールドワーク　　左：定置網体験　右：他大学生とのグループワーク

☆単位互換制度（高等教育コンソーシアムみえ）

2019 年度から、鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部の学生が、県内の高等教育機関（大学・短大・高専）で、指定された科目について履修ができるようになりました。

■今後の計画

　今後も県内の高等教育機関と連携を深め、協力しながら、本学の学生にとっても、メリットのある取組をいたします。県内への就職に有利な三重創生ファンタジスタの資格取得者が増えて、地域人材育成・地域貢献できる大学を目指していきたいです。

■担当者

担　当　国際地域学部　国際地域学科　地域コース（観光）教授　冨本真理子

連絡先　メール　m-tomimoto@suzuka.ac.jp

学外委員会での活動(委員会名・役職名のリスト)

この資料は鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部に委嘱届の提出されたもののみを示します。この他に教員が個人的に学外組織の委員を務めている場合もあります。

教員

名前	派遣先	内容
田中　利佳	鈴鹿市	三重とこわか国体・三重とこわか大会鈴鹿市実行委員会　総務企画専門委員会／委員
	鈴鹿市	鈴鹿市公の指定管理者選定委員会／委員
木之内　秀彦	鈴鹿市	人権擁護に関する審議会／委員
	鈴鹿市	個人情報保護審査会／委員
富田　寿代	三重県	三重県環境影響評価委員会／委員
	愛知県	愛知県環境影響評価委員会／委員
	鈴鹿市	鈴鹿市廃棄物減量等推進審議会／委員
	名古屋市	名古屋市大規模小売店舗立地審議会／委員
冨本　真理子	三重県	みえ地域創生多文化産学官連携推進協議会／委員
	鈴鹿市	鈴鹿市観光まちづくり委員会／委員長
	鈴鹿市政策経営部	鈴鹿市総合計画審議会／委員
	伊勢市	都市計画審議会／委員
	斎宮歴史博物館	運営専門委員
桟敷　まゆみ	鈴鹿国際交流協会	評議員
崔　載弦	三重県	三重地域留学生交流推進会議運営委員会／委員
舟橋　宏代	ダイシン物流株式会社	日本語教室アドバイザー
竹田　昌平	三重県生涯スポーツ協会	理事長
	日本ティーボール協会	評議員
	日本ティーボール協会三重県連盟	理事長
	日本プロット株式会社	取締役
	株式会社タケダ	代表取締役
川又　俊則	桑名市	桑名市男女共同参画審議会／委員
	三重県	三重県男女共同参画センター運営協議会／委員
大野　泰子	鈴鹿市子ども政策部	特定教育・保育施設等重大事故検証委員会／委員長
久保　さつき	鈴鹿市	鈴鹿市農業委員会／委員

小川　真由子	鈴鹿市	鈴鹿市防災会議／委員
	鈴鹿市	鈴鹿市国民保護協議会／委員
田口　鉄久	津市	子ども・子育て会議／委員
	鈴鹿市	子ども・子育て会議／委員
山路　克文	松阪市	松阪市安全・安心施策推進協議会オブザーバー
	私立大学情報教育協会	委員
	明和町	明和町教育委員会／教育委員
	三重県	三重県社会福祉審議会／臨時委員（高齢者福祉専門分科会）
	三重県	三重県医療福祉部地域ケア会議／活動支援アドバイザー（広域支援員・専門職）
梅原　頼子	三重県栄養士会	理事・副会長
	日本栄養士会	評議員
	日本栄養士連盟	評議員
	三重県公衆衛生審議会	歯科保健推進部会／委員
乾　陽子	家庭料理技能検定	検定委員
	鈴鹿市社会福祉協議会	鈴鹿市災害ボランティアセンター連絡会委員

事務職員

名前	派遣先	内容
米島　久雄	鈴鹿市	鈴鹿市雇用促進連携協議会構成員
小椋　恵子	三重県	三重県医療安全推進協議会／委員

2020 年度公開講座一覧

開催日	講座名	内容	受講者数
11 月 14 日(土)	心理学入門	人間の“こころ”を知るための心理学とはどのようなものなのか、体験を通して考えてみましょう。 今回は，“行動から分かる人間の心理”について扱ってみたいと思います。新型コロナウィルスの影響で人と人とのコミュニケーションはどのように変わっていくのか，皆さんにとって考えるヒントになるかも知れません。	27 人
12 月 6 日(日)	身近な感染症	“ウィズ　コロナ”が叫ばれる社会背景において、私たちは感染症とどう向き合えばいいのでしょうか？身近な感染症についての知識を学び、日常に活かせる予防対策について考えましょう。	7 人

協定先一覧

2021年3月17日現在

協定先	内　容
放送大学	鈴鹿国際大学と放送大学との間における単位互換に関する協定書
鈴鹿市	鈴鹿国際大学と鈴鹿市との学官連携に関する協定書
中華人民共和国河北工業大学	日本鈴鹿国際大学と中華人民共和国河北工業大学の編入学生に関する協議書
中華人民共和国河北工業大学	日本鈴鹿国際大学と中華人民共和国河北工業大学の学術交流に関する協定
鈴鹿市	大規模災害時における避難場所としての使用に関する協定書
三重県立久居高等学校	三重県立久居高等学校と学校法人享栄学園鈴鹿短期大学との高大連携に関する協定書
四日市大学　他５高等教育機関	三重県私立高等教育機関の包括的連携に関する協定書
社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会	社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会と学校法人享栄学園鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部との災害発生時における相互協力に関する協定書
鈴鹿高等学校 鈴鹿中学校	鈴鹿中学校 ・ 鈴鹿高等学校と鈴鹿大学 ・ 鈴鹿大学短期大学部との高大連携に関する協定書
大韓民国順天第一大学校	日本国鈴鹿大学と大韓民国順天第一大学校の学術交流に関する協定
大韓民国仁川大学	日本国鈴鹿大学と大韓民国仁川大学校との教育の交流に関する協議書
大韓民国仁川大学	日本国鈴鹿大学と大韓民国仁川大学校との学術交流に関する協定
NAJC	鈴鹿大学と NAJC の教育パートナーシップに関する協定
台湾首府大学	鈴鹿大学と台湾首府大学との学生交流及び進学支援に関する協議書
台湾首府大学	鈴鹿大学と台湾首府大学の学術交流に関する協定
三重大学　他 11 高等教育機関 三重県	「高等教育コンソーシアムみえ」に関する協定書
三重大学　他 12 高等教育機関	高等教育コンソーシアムみえ単位互換に関する協定書
三重県立四日市工業高等学校	三重県立四日市工業高等学校と学校法人享栄学園鈴鹿大学との高大連携に関する協定書
亀山市教育委員会	亀山教育委員会と鈴鹿大学との連携に関する協定書
亀山市教育委員会	亀山教育委員会と鈴鹿大学短期大学部との連携に関する協定書

蘇州人旺資源服務有限公司	中国人留学生の就職支援に関する協定書
中国文化大学社会科学院	鈴鹿大学と中国文化大学の学術交流に関する協定書
尾鷲市	尾鷲市インターンシップの取扱いに関する協定書
SUZUKA 産学官交流会	ランニングバイクプロジェクトに関する基本協定書
啟英高等学校	啟英高等学校と学校法人享栄学園との高大連携に関する協定書
啟英高等学校	鈴鹿大学と啟英高等学校との学生交流及び進学支援に関する協議書
長榮大学	鈴鹿大学と長榮大学との学術交流に関する覚書
岐阜経済大学	大学間連携推進事業の実施に関する協定書
株式会社日本政策金融公庫津支店 株式会社日本政策金融公庫四日市支店	起業家教育及び産学連携の協力推進に関する協定書
佛教大学	佛教大学と鈴鹿大学との小学校教諭免許状課程履修に関する協定書
亀山みそ焼きうどん本舗 亀山市 株式会社鈴りん探偵舎	Ｂ－１グランプリで亀山をしってもらおう協定
松阪市 三重県立飯南高等学校 株式会社鈴りん探偵舎	飯南いいな～協定
三重県高等学校商業校長会	三重県商業学校商業校長会と鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部との商業教育連携・推進に係る協定書
株式会社タスカル	株式会社タスカルと学校法人享栄学園との産学連携基本協定書
三重県	鈴鹿大学及び鈴鹿大学短期大学部への三重県営住宅の提供に関する協定書
特定非営利活動法人三重県生涯スポーツ協会	インターンシップに関する協定書
NPO 法人三重県生涯スポーツ協会	NPO 法人三重県生涯スポーツ協会とのデータサイエンス教育に関する協定書
株式会社三重スポーツコミュニケーションズ	株式会社三重スポーツコミュニケーションズとのデータサイエンス教育に関する協定書
株式会社 ZIONGROUP	株式会社 ZIONGROUP とのデータサイエンス教育に関する協定書
愛知教育大学長	愛知教育大学と鈴鹿大学との教員養成の高度化に関する連携協定書